

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

作成日 : 2011/02/14

製品の名称 : StayClean-F SC-F1-02
会社名 : 株式会社ディスコ
郵便番号 : 143-8580
住所 : 東京都大田区大森北2-13-11
担当部門 : 環境マネジメント室
電話番号 : 03-4590-1083
FAX番号 : 03-4590-1112

推奨用途及び使用上の制限 : ダイシング切削水用添加剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類 :
健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分外
急性毒性(吸入:蒸気) : 区分外
急性毒性(吸入:ミスト) : 区分外
上記で記載がない危険有害性は分類対象外か分類できない

GHSラベルの要素

絵表示又はシンボル : 表示なし
注意喚起語 : 注意喚起語なし
危険有害性情報 : 危険有害性情報なし
注意書き : 注意書きなし

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区分 : 混合物

化学名または一般名	有機酸無機アルカリ塩	水
CAS番号	各成分とも登録済み	-
濃度又は濃度範囲(重量%)	20%-30%	70%-80%
化学式または構造式	-	H ₂ O
官報公示整理番号	各成分とも登録済み	対象物ではない
PRTR法指定化学物質	対象物ではない	対象物ではない
安衛法通知対象物	対象物ではない	対象物ではない

4. 応急措置

吸入した場合 :

・新鮮な空気のある場所に移し、身体を毛布等で覆い、保温して安静に保ち、異常があれば医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 :

・触れた部分を水またはぬるま湯でよく洗い流す。外観に変化があるか、痛みが続く場合は、医師の診断を受ける。

眼に入った場合 :

・直ちに清浄な流水で15分以上洗眼した後、眼科医の手当てを受ける。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は、外して洗浄を続けること。

飲み込んだ場合：

- ・直ちに口をすすぎ、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませた後、無理に吐かせないで、速やかに医師の診察を受ける。意識の無い場合は、口から何かを与えたり、無理に吐き出させたりせずに速やかに医師の診察を受ける。

5．火災時の措置

消火方法：

- ・火元への供給源を絶ち、炭酸ガスまたは粉末消火器を使用して風上から消火する。

消火剤：

- ・炭酸ガス、泡、粉末消火剤が有効である。

6．漏出時の措置

大量の場合：

- ・漏出した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止し、付近の着火源となるものを速やかに取り除く。盛土等で囲って流出を防ぎ、できるだけ多くバケツ、ポンプ等で回収する。作業の際には必ず保護具を着用する。

少量の場合：

- ・土砂、おがくず、ウエス等に吸収させて空容器に回収する。作業の際には必ず保護具を着用する。

7．取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・眼や皮膚に触れないように注意し、取り扱う際には保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。
- ・ミスト又は蒸気を吸入すると気分が悪くなることがある。取扱いは通気のよいところで行い、呼吸用保護具を使用する等してミスト又は蒸気を吸入しないようにする。
- ・取り扱う際には火災、火花、高温体あるいは強酸化剤との接触、接近を避ける。

保管

- ・直射日光を避け密栓して、冷暗所かつ凍結しない場所に、火気、熱源より遠ざけて保管する。
- ・酸化性物質、有機過酸化物など同一場所に保管してはならない。

8．暴露防止及び保護措置

管理濃度：

- ・設定されていない。

設備対策：

- ・全体換気又は局所排気装置を設置・使用する。
- 取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗いの設備を設けその位置を明示する。

保護具

呼吸器の保護具：

- ・必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。

手の保護具：

- ・長時間又は繰り返し接触する場合は合成ゴムまたは合成樹脂製保護手袋を着用する。

目の保護具：

- ・飛沫が飛ぶ場合はゴーグル型眼鏡又は防災面を着用する。

皮膚及び身体の保護具：

- ・長時間にわたって取り扱う場合又は濡れる場合には、長袖作業衣を着用する。濡れた衣類は直ちに脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

衛生対策：

- ・取扱い後はよく手を洗う。

9 . 物理的及び化学的性質

形状：	液体
色：	無色透明～淡黄色透明
臭い（臭いの閾値）：	弱いアンモニア臭
pH（原液）：	4.7±0.5
融点/凝固点：	0 未満
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	引火せず
自然発火温度：	データなし
燃焼又は爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重(密度)：	1.04g/cm ³ , 15
溶解性：	水に任意の割合で溶解
オクタノール/水分配係数：	データなし
分解温度：	データなし

10 . 安定性及び反応性

- 安定性：
- ・ 通常の取り扱い条件においては安定
- 危険有害反応可能性：
- ・ 通常の取り扱い条件においては安定
- 避けるべき条件：
- ・ 7項を参照
- 混触危険物質：
- ・ 強酸化剤
- 危険有害な分解生成物：
- ・ 燃焼の際は、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物などが生成される可能性がある。

11 . 有害性情報

- 急性毒性：
- ・ 急性毒性（経口）は「区分外」に分類される。
 - ・ 急性毒性（経皮）は「区分外」に分類される。
 - ・ 急性毒性（吸入）は「区分外」に分類される。
- 皮膚腐食性・刺激性：
- ・ データなし
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性：
- ・ データなし
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性：
- ・ データなし
- 生殖細胞変異原性：
- ・ データなし
- 発がん性：
- ・ データなし

生殖毒性：

- ・データなし

特定標的臓器 / 全身毒性（単回暴露）：

- ・データなし

特定標的臓器 / 全身毒性（反復暴露）：

- ・データなし

吸引性呼吸器有害性：

- ・データなし

1 2 . 環境影響情報

生態毒性：

- ・水生環境有害性（急性）データなし。
- ・水生環境有害性（慢性）データなし。

残留性 / 分解性：

- ・データなし

生体蓄積性：

- ・データなし

土壤中の移動性：

- ・データなし

COD（化学的酸素要求量）：

- ・32000mg/L（JIS K 0102-17）

BOD（化学的酸素要求量）：

- ・2500mg/L（JIS K 0102-21）

1 3 . 廃棄上の注意

残余廃棄物、廃容器は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従い適正に処理する。
残余廃棄物は事業者が自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理をする。
廃容器に圧力をかけると破裂することがある。廃容器は溶接、加工、穴あけ、又は切断を行うと、爆発を伴って残留物が飛散することがあるので注意する。

1 4 . 輸送上の注意

・容器に漏れあるいはその恐れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いよう積み込み荷崩れの防止を確実にを行う。取り扱い及び保管上の注意事項の記載による他、当該法規に従って貯蔵、取り扱い、荷造り、包装、運送を行うこと。

陸上輸送：	消防法 非危険物
海上輸送：	船舶安全法 非危険物 個別運送及びバラ積み運送において
航空輸送：	航空法 非危険物
国連分類：	国連の基準で評価して危険物に該当しない
国連番号：	国連の基準で評価して危険物に該当しない

15. 適用法令

労働安全衛生法：	該当しない
PRTR法：	該当しない
毒劇物取締法：	該当しない
消防法：	危険物に該当しない
化審法(特定化学物質、指定化学物質)：	該当しない
水質汚濁防止法：	排出基準規制
海洋汚染防止法：	該当しない
廃棄物の処理および清掃に関する法律：	産業廃棄物規制(拡散・流出の禁止)
下水道法：	排出基準規制
船舶安全法：	該当しない
航空法：	該当しない
輸出貿易管理令：	該当しない

16. その他の情報

参考文献：

- 1) JIS Z 7250:2005
- 2) 製品安全データシートの作成指針(改訂2版)
社団法人 日本化学工業協会(平成20年10月)
- 3) 許容濃度の勧告(2009)日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌
- 4) Thresholds limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH(2009)

その他：

・この情報は新しい知見に基づき改正されることがあります。記載情報は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、物理・化学的性質、危険・有害性に関しては、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学品には未知の有害性がありうるため取扱いには細心の注意が必要です。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。